



学校だより

校長 杉村 幸恵



季節の変わり目です。 子供たちの体調はいかがでしょう？

六月も半ばを過ぎ、だんだんと蒸し暑い日が増えてきました。かと思えば、今週は気温も定まらず、体調を崩しやすい時です。コンコンと乾いた咳をしたり、ゴホゴホと痰の絡むような咳をしたりしている子供も見られます。また、なかなかすつきりとしなない様子も気になります。季節の変わり目というだけでなく、プールの学習も始まり疲れも出ているようにも感じます。ゆつくりとお風呂につかったり、十分な睡眠時間を確保したりして疲れを除くと共に、体調の思わしくないときは、無理をせずゆつくりと休ませていただくこともお願いします。

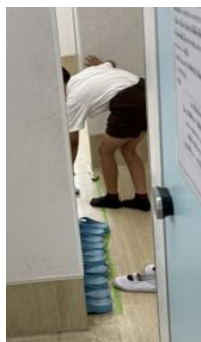
併せて、怪我で保健室に来室する児童の多さも気になっています。休み時間に転んだり、突き指をしたりという怪我から、教室内で机にぶつかった、階段を降りる途中で足をぐねったなど、少し落ち着いて行動することや気を付けることで防げたと思われる怪我も多いです。中には、休日の怪我の手当を求めている子供もいます。家では手当てをしていないと話す子供も多く、業間や昼休みの後は、保健室が児童でいっぱいになることも少なくありません。

放課後や休日の過ごし方と併せて、子供たちの体調を確認していただけますとありがたいと思います。

心は見えませんが、心遣いは見えます。

先週、ある学年のトイレでこのような姿を見かけました。彼は私が見ていることには気付かず、黙々とスリッパを整頓しています。一直線に整然と並べられたスリッパ。きつと次にトイレに來た児童は気持ちがいいことでしょうね。彼の心遣いが見えますね。素晴らしい姿です。

710 名もの児童が使うトイレです。スリッパが見る



も無惨に散らかっている場面に出くわすことも多い中、時折、彼のようにスリッパを

整えている児童の姿を見ることがあります。よいことと分っていても、案外行動に移すのは難しいものです。散らかす人と整える人。後者の姿に心の豊かさを感じ、心遣いを大事にできる子供を御家庭とともに育てたいものです。

姿勢を整えて、学びの土台作りを

「立腰(りつよう)」。保護者の皆様はこの言葉をお聞きになったことはありませんか？本校では、今年新たな取り組みとして、先日よりこの「立腰」に取り組んでいます。「立腰」とは、簡単な言葉で言い換えると「正しい姿勢をする」ことです。学級での学習風景を見ていると、机に伏せるようにしている子や、頬杖をついたままで本を読んだりノートを書いたりしている子など、子供たちの姿勢が気になっていま

した。そこで、一年生の時に最初の指導の一つとしている姿勢の基本、『背中とお腹にグーを一つ分けて椅子に腰掛け、両足は床にべたとつける、背筋はぴんとのばして』を思い出し、「グー・べた・ぴん」意識しながら、無理なくよい姿勢を保つことができる座り方を推奨しています。コツは、おへそを少し前に出すようにし、肩の力を抜くことです。そうすることで、楽に座ることができるようです。毎日、五時間目のはじめには、



ようです。毎日、五時間目のはじめには、全校一斉に「起立・礼・着席・立腰」のかけ声と共に、正しい座り方で集中して学習に臨むようにしています。とは言っても、



一時間中、ずっと背筋を伸ばし続けるのは難しいです。日々の生活の中で少しずつ自分の姿勢を見直すきっかけになることをねらっています。

沖縄慰霊の日と思う、平和とは・・・



昨日六月二十三日は沖縄慰霊の日でした。戦後八十一年が経ち、私たちも意識をしなければ多くの尊い命が犠牲になった事実を見逃してしまいそうになります。本校では、今年も沖縄慰霊の日に合わせて、各学級で絵本や動画を使って平和について考える取組を行っています。今年の追悼式では、五歳のころ曾祖母から戦争の話聞いた女学生が「生きたいと願った証」という詩を朗読されました。保護者の皆様もお時間がありませんでしたら一度御一読されてはいかがでしょう。子供たちに伝えたい、伝えなければならないことがたくさん詰まっています。

